

初出 A Catalogue of books belonging to Adam Smith, Esqr. 1781 (1995)

刊行にあたって

このたび本学部が創立75周年を迎えたことを記念して、本学部所蔵のアダム・スミス文庫の中から、1781年にスミスが作成させた筆写の蔵書目録“A Catalogue of Books belonging to Adam Smith, Esqr. 1781”を複製することとした。本学部は1919年4月に法科大学から独立して経済学部となったが、これを祝って当時本学部教授在籍のまま国際聯盟事務次長の職にあった新渡戸稲造教授からアダム・スミスの蔵書の一部である役140部300冊余の図書が寄贈された。学部創立30年を機会に、矢内原忠雄教授の編集でこの文庫の英文目録“A full and detailed Catalogue of Books which belonged to Adam Smith, Now in the possession of the Faculty of Economic, University of Tokyo With Notes and Explanations by Tadao Yanaihara” Tokyo, Iwanami Shoten, 1951 を公刊し、筆写目録も活字体で付録としたが、今回は筆写体のまま複製するものである。菊倍版程度の大判の丈夫な紙87枚に細いペンで花文字風の書体で記され、インクがほとんど褐色に薄れている部分もあるが、現代の印刷技術により現状を記録し保存することができるのは幸である。著者名順ではなく、書架順に記載された蔵書の数に約1120部2300冊、うち後述のボナー目録第2版に出ているものは約610部と数えられている。刊行にあたり、本学部がアダム・スミスの蔵書の一部を所蔵するにいたった経緯とこの筆写目録に関する挿話を簡単に記しておこう。

1790年7月17日のスミスの歿後、その蔵書は遺言により従兄弟のデイヴィッド・ダグラス David Douglas (当時21歳、のちにレストン卿 Lord Reston, 1769-1819) に譲られ、1819年のダグラスの歿後にその2人の娘 カニンガム夫人 Mrs. Cunningham とバナマン夫人 Mrs. Bannerman に2等分された。1879年にバナマン夫人が没してその蔵書は息子の David Douglas Bannerman に譲られ、彼は1884年と1894年の二回にわたりエディンバラ大学神学部 (ニュー・カレッジ) に寄贈した。カニンガム夫人の夫 W.B.カニンガム牧師が1879年に没したとき、夫人はエディンバラで蔵書を売りに出し、その一部はエディンバラ大学初代経済学教授ウィリアム・バラントイン・ホジスン (1815-1880) が買い取り、教授の歿後にホジスン未亡人はこれをエディンバラ大学の図書館に寄付した。また一部はホジスンの養子で後任者のニコルスン教授が買い取り、アダム・スミスの故郷で国富論の執筆された地であるカーコーディー Kircaldy のミュージアムに寄付された。その他の書籍はカニンガム夫人の息子で北アイルランドのベルファストのクイーンズ・カレッジの自然学教授であった R.O.カニンガムに相続され、その一部は生前に同大学に寄付されたが、残りは1918年7月の同教授の歿後にロンドンの古書籍商 Dulau & Co. から売りに出された。1920年7月にロンドンに滞在中であった新渡戸教授がこれを購入し、6個の木箱に収めて船便で東京に送らせ、10月中旬に経済学部研究室に到着した。その際の書籍商の保証状は以下のとおりである。

At the death of Adam Smith, his library went by will to David Douglas

初出 A Catalogue of books belonging to Adam Smith, Esqr. 1781 (1995)

afterwards Load Reston. On Load Reston's death the library was divided between his two daughters, Mrs. Cunningham and Mrs. Bannerman. Mrs. Cunningham gave her portion to her son Professor Cunningham, Queen's College, Belfast. After the death of Professor Cunningham the library was sold in 1918 to Messrs Dulau & Co. Ltd., London from whom Dr. I. Nitobe purchased it in July 1920.

Dulau & Co. Ltd.

Fw. Chaundy, Director.

また、新渡戸教授からの7月23日付の手紙は以下のごとくである。

拝啓益々御清穆之段奉賀候（中略）不図数日前当市書 Dulau & Co. の目録に依りアダムスミスの蔵書三百余冊が売物となり居るを承知致候、右は御承知の Bonar の“List of the Books in the Library of Adam Smith”中に掲げられたる物の一部にて今日實際上の御参考にはならずとも経済学者の宝物とも申すべきものと被存候に付右を新設経済学部へ寄贈致度候、就ては本日右書より直接貴学部宛書籍入六箱発送為致候間到着の上は何卒可然御取計ひ被成度候、実は拙者儀買入申込後可なり諸方面より希望出で殊に蘇国の某大学より切なる望も有之候へ共幸に拙者の手に落ち候故愈日本の持物と相成り又帝大の一の誇とも相成候事は甚だ愉快に存じ候（下略）

蘇国の某大学とはスミスゆかりのグラスゴー大学が一足違いで書店に駆けつけたことをさすといわれている。8月9日付の新渡戸教授の第2信では次のように述べられている。

拝啓益々御清適の段慶賀此事と奉存候、陳者先便にて申上候通アダムスミス文庫船便を以て経済学部宛発送仕り候間不日御入手の事と存上候、右に付ては其の後当国人に吹聴致す度毎に一人として其の日本の有に帰したる事を残念がらざる者無之候、夫れ丈け小生も至極満足に存ずる次第に御座候（下略）

これを受け取った山崎覚次郎教授は次のように記している。

今、文庫をみるに経済学書は割合多からずと、文学書あり、旅行記あり、伝記あり、詩集あり、探検記あり、辞書、年鑑あり、英語、仏蘭西語、拉典語、独逸語、の書物大小合せて三百冊に及び、スミスの涉獵博覧を語つてゐる。図書の多少破れ損じて居るのは、歲月魚の之をなし、数家に転する間、之を致せるものあるべしと、亦何ぞ故人が翻読の名残たらざる無からん。思ふに、此等の図書は、スミスが知見を広め、思想を練り、又その独居の幽情を慰むる友であり、而してその中に含まれし理想と真理は、彼の偉大なる頭脳に濾過されて、其の名著大作となつたのであらう。之を想い彼れを考ふれば、追憶懐顧の情まことに忍び難いものがある。而して此の文庫が、我学部の有となつたことは特に喜ばねばならぬ所である。（山崎覚次郎「アダム、スミス遺愛の図書（新渡戸教授より寄贈せらる）」『経友』第2号、1921年2月）

1923年9月1日の関東大震災で研究室が全焼した際には、用務員2名の勇敢な働きにより当文庫の書物は全部窓から投げ出され、危うく焼失を免れた。また、第二次大戦の

初出 A Catalogue of books belonging to Adam Smith, Esqr. 1781 (1995)

時には空襲を避けるため山梨県甲府市図書館に疎開し、甲府爆撃の報に関係者が青くなったこともあったが、無事二度目の災難も逃れたが、この二度の災害の際のやむを得ざる緊急処置と移動のため破損は免れなかった。1951年には前記の矢内原目録を刊行し、この時点で文庫は141部308冊と数えられた。文庫全体の内容の概略については、矢内原忠雄「東大経済学部所蔵アダム・スミス蔵書について」（アダム・スミスの会、大河内一男編『アダム・スミスの味』東京大学出版会、1965年）に述べられている。文庫はその後著しい破損の修理のため矢内原・大河内両教授ならびに図書館の永峯光名氏の尽力で1955年1月から1957年9月までかけて服部政祐氏の手により本格的補修と一部についての合本がなされ、この筆写蔵書目録の皮ケースも作成された。『国富論』刊行200年にあたる1976年にはアダム・スミス文庫の公開展示会を開催した。文庫には1954年6月以降に5部8冊が購入および寄贈によって追加され、現在は136部311冊となっている。（大河内暁男「アダム・スミス文庫新収蔵書について」（東京大学経済学会『経済学論集』第42巻第4号、1976年12月）

スミスの蔵書の大半約3分の2についてはジェイムス・ボナー教授（1852-1941）が目録を編纂して1894年に公刊した（James Bonar, *Catalogue of the Library of Adam Smith*, 1894）。しかしこの目録には東大保管の約300冊のうち一部分が記載もれとなっており、ボナー教授は旧知の河合栄次郎教授に東大保管分の点検を依頼した。河合教授のもとで作成されたリストがボナー教授に送付され、他の追加分も加えて1932年にボナー目録の第2版が出版された。その際、ボナー教授は東京所在の蔵書のうちから約20冊を新たに目録に加えることができたこと、20冊のうちこのアダム・スミスの編纂になるアダム・スミス所蔵本目録（1761年）が特殊な値打ちをもち、とくにスミスが1759年に『道徳感情論』を出版後まだ経済学の書物を何も出版しなかった当時の彼の書庫に何があったのかを示すものとして重要であると述べた。河合教授の送付したリストでは作成年の1781年を誤って1761年と記していたため、この指摘がなされたのである。のちにグラスゴー大学のアダム・スミス講座の担当者スコット教授 Prof.W.R.Scott は河合教授と工学部の加茂正雄教授を通じて筆写目録の写真版の提供を依頼し、本学部では研究室主任の田辺忠男教授と大河内一男講師が担当して103枚の写真をスコット教授に送った。1937年に公刊された同教授の著書『学生及び教授としてのアダム・スミス』“Adam Smith as Student and Professor”で、写真版の検討の結果ボナー第2版で1761年と記されたのは誤りで1781年が正しく、したがってスミスが倫理学者として登場し1764年にフランス旅行により重農学派の人々と接触する以前の1761年ではなく、すでに『国富論』を刊行し経済学者として大成したのちの1781年の蔵書を示すものであることが指摘された。（大河内一男『「アダム・スミス文庫」余談』、『経友』第28号、1939年12月）

なお、アダム・スミスの蔵書全体については、グラスゴウ・エディンバラ・ベルファスト・ロンドンの4大学を中心に世界の図書館を精査された水田洋教授が1967年に目録を作成し、Hiroshi Mizuta, *Adam Smith's Library. A supplement to Bonar's Catalogue*

初出 A Catalogue of books belonging to Adam Smith, Esqr. 1781 (1995)

with a Checklist of the whole library, Cambridge 1967 として公刊された。その際に1781年のこの筆写目録も活用されている。同教授による検討の結果については、水田洋「アダム・スミスの蔵書」(アダム・スミスの会、大河内一男編『アダム・スミスの味』東京大学出版会、1965年)および目録公刊後の水田洋「アダム・スミスの蔵書」(東京大学経済学会『経済学論集』第40巻第3号、1974年10月)、水田洋『アダム・スミスの蔵書』(一橋大学社会科古典資料センターStudy Series No.19、1989年3月)に詳しい。教授はさらに1993年11月に全面改訂版“Adam Smith’s Library, A Catalogue edited with an introduction and notes by Hiroshi Mizuta, Revised November 1993”を作成され、本学部図書館に恵与された。今回の複製にあたり水田新目録の記載方式による書物の点数を数えたところ、スミス蔵書は1806点、うちこの1781年筆写蔵書目録に記載された点数は1069点、そのうち水田教授が所蔵箇所を確認されたもの784点、所蔵箇所不明のもの285点であった。本学部所蔵のものは水田新目録では137点記載されている。

以上が簡単ながら本目録についての紹介である。学部創立75周年を記念して本目録を刊行するにあたり、あらためて本学部の発展に寄与された関係各位に深く感謝するものである。

1995年1月

東京大学経済学部創立75年記念事業委員会
委員長 原 朗